

『羽村市史 資料編 中世』構成案

口絵（カラー写真）	… 8 ページ
刊行にあたって（市長）	… 2 ページ
編集にあたって（部会長）	… 2 ページ
凡例	… 4 ページ
総目次	… 2 ページ
細目次	… 16 ページ
第 1 章 編年史料（掲載史料数：350 点）	…175 ページ
第 2 章 石塔	
2-1 概説	… 6 ページ
2-2 集成（掲載資料：板碑 120 点／宝篋印塔・五輪塔 20 点）	… 37 ページ
2-3 一覧表	… 10 ページ
史料所蔵・出典一覧	… 8 ページ
あとがき（部会）	… 2 ページ
協力者・協力機関一覧	… 2 ページ
関係者一覧	… 2 ページ
奥付	… 1 ページ
計	277 ページ

18Q ■ 応永二十五年（一四一八）

九月二十九日、三田左衛門五郎朝貞は、柚保長淵郷すたかの、村内の四郎次郎入道屋敷・手作田を宝林庵に寄進する。

史料1 三田朝貞寄進状〔青梅市郷土博物館所蔵旧宝林寺文書三〕

奉寄附 宝林庵敷地所并庵前之田畵段半事、

右所者、武州柚保長淵郷すたかの、村内四郎次郎入道屋敷一字并朝貞手作田一所、四至境四方廻道現前也、然間、彼庵開山 奉請夢窓国師被建立梵秀侍者之間、為朝貞現当二世永代令寄附者也、若子々孫々中二於彼所庵所并田地、致違乱煩有輩者、為不孝之仁、朝貞跡一分不可知行者也、仍為後証、寄進状如件、

応永廿五年九月廿九日 平朝貞（花押）

三田左衛門五郎

15Q
【注】 宝林庵：多摩郡長淵村（青梅市長淵）にあった臨済宗宝林寺。現廢寺。『風土記稿』卷百十三には「宝林寺 除地、畑六畝二歩、内境内十六坪、下村の南にあり、村内玉泉寺末、明見山と号す、開山夢窓国師なり」と云、国師は京天龍寺の開山にて、足利將軍帰依の高僧なれば、此返の小寺を開きしと云は疑ふべし」とある。すたかの、村：下長淵村小字須高。夢窓国師：夢窓疎石（一二七五～一三五二）。南北朝時代の臨済宗の僧。後醍醐天皇・足利尊氏らの篤信を受け、京都嵯峨に天童寺を開山。

14Q
【解説】 夢窓疎石を開山として梵秀が宝林庵を建立する際に、長淵郷の領主である平朝貞が須高村の四郎次郎入道屋敷と自分の手

いぬ

うりぬし 三田安芸太郎入道

かいぬし 宝林庵主梵秀侍者禪師

沙弥勝千（花押）

【注】 小佐久村：羽村市小作。得分：毎年しはた屋敷から得られる取り分。由井：八王子市由比のことか。

【解説】 沙弥勝千は「うりぬし 三田安芸太郎入道」とあり、三田氏であることがわかる。この時点で入道していることから入道していない史料*三田朝貞の父とも考えられる。三田勝千は、得分五〇〇文の地を「十年十作」（この年から十年間の作物の収穫）の代銭一貫五〇〇文で宝林庵主梵秀に年季売りしている。これは由井の永代売りの代わりで、もし由井が安堵されなければ、この土地を永代売りとするところである。

■ 嘉吉二年（一四四二）

八月十三日、梵秀は瑞長小僧を柚保長淵郷須高村宝林寺の住持に補任する。

史料3 梵秀補任状〔宝林寺文書〕

武州柚保長淵郷須高村宝林寺事、

右所者、自三田五郎左衛門尉朝貞手、永代買得、令宝林寺建立而、瑞泉寺末寺申成、毎年開山忌茶湯分少進納申者也、然間文書相副而、瑞長小僧永代令補任、自但 玉岑和尚二字下給間、万事可任尊意

13Q
作田を永代寄進している。平朝貞は三田左衛門五郎と称していたことは、のちの史料*の嘉吉二年（一四一八）梵秀補任状に「三田五郎左衛門尉朝貞」と見えることからわかる。本文書の「三田左衛門五郎」は宛名位置にあり違和感があるが、これは本文書が写しでその際の誤写とも考えられる。また、『風土記稿』が記すように夢窓疎石を開山とするにはすこし無理があり、実質的には二世梵秀の活躍で建立されたとみられ、その年は応永二十五年と言っている。いずれにしても長淵郷は柚保の東南端に位置し、ここまで三田氏の勢力が及んでいたことを示す史料である。

十一月十一日、三田安芸太郎入道勝千は、柚保長淵郷小佐久村内の屋敷を宝林庵主梵秀に十年季で売り渡す

史料2 三田勝千売券〔青梅市郷土博物館所蔵旧宝林寺文書〕

うり渡す武蔵国柚保長淵郷小佐久村内の内、しはたやしきまいねんとくふん五百文の所なり、

合代銭壹五百文者、

右、件の所ハ、勝千ちうたいさうてんの所也、しかるを明年いぬの年より、来ひつしの年まで、拾年拾作うり渡し申候ものなり、但これハ由井の永代のかわりにて候、由井若安堵仕らすハ、この状を永代の状として、御ちきやうあるへく候、若勝千か子孫二において、違乱煩申輩あらハ、なかく勝千か跡を一字もちきやうすへからす候、猶々違乱すこしもあるへからす候、仍為後日、うりけんの状如件、

つちのへ

不可成私思、


次雖為無縁所、他門望不可有者也、

仍為後日補任之状如件、

嘉吉二年壬戌八月十三日 梵秀（花押）

【注】 須高村：長淵村小字須高（青梅市長淵）。宝林寺：青梅市長淵にあった臨済宗明見山宝林寺。現廢寺。瑞泉寺：鎌倉市二階堂にある夢窓疎石が嘉暦二年（一三二七）に開山の鎌倉の名刹。鎌倉五山に次ぐ関東十刹に列せられた格式のある寺院。玉岑：不明。無縁所：寺領や檀越もない寺院。

【解説】 宝林寺は三田朝貞からの買得地によって建立され、臨済宗瑞泉寺の末寺として毎年に夢窓疎石命日の開山忌茶湯分を負担してきた。宝林寺二世梵秀は文書を添えて、瑞長小僧を住職に補任するので、玉岑和尚の指導に従うように命じている。


 (蓮座)
 應永二年八月時正
 妙



◆ 4 羽 741 羽村市郷土博物館蔵(吉田栄治氏寄贈)


6-1. 応永4 [1397]
 阿弥陀一尊種子
 (38) × 18 × 2.5

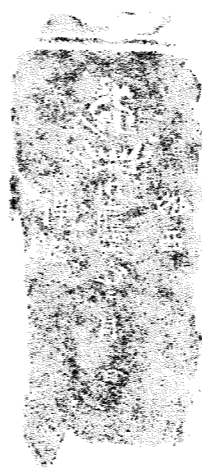

 (蓮座)
 (花瓶) 逆妙信
 応永十八年六月日
 修禪尼





◆ 3 羽 741 羽村市郷土博物館蔵(指田勇氏寄贈)

7-1. 応永10 [1403]
 阿弥陀一尊種子
 (42) × 18.5 × 2
 *1975年、地藏堂前の墓地より出土(史料集)。


 (蓮座)
 妙西
 明應六年二月日
 禪尼





5-1. 明応6 [1497]
 阿弥陀種子
 (39) × 15.5 × 2.5

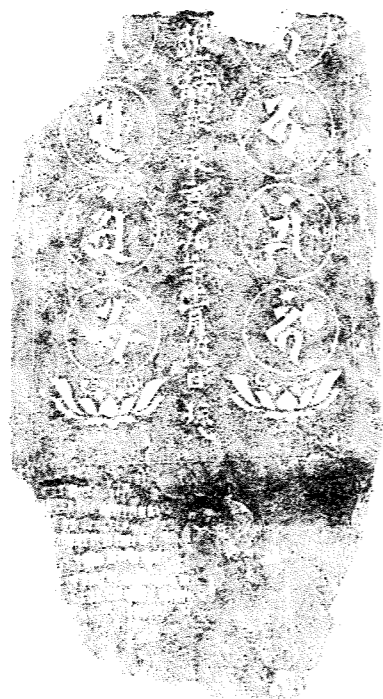
(天蓋)

 (蓮座)
 月待供養
 寛正二年八月十八日
 人数十九人
 敬
 白

 (蓮座)



5-1. 寛正2 [1461]
 十三仏種子
 (76.5) × 28.5 × 3.5
 *明治の頃田の上経塚より出土(史料集)。

◆ 1 羽 741 羽村市郷土博物館蔵(大菩薩記念館)


 (蓮座)
 根一結衆永享九年十一月廿八日孫八

 (蓮座)



1-2. 年不明
 十三仏種子
 (55) × □ × 3
 *漆下地に金泥あり

○○○○○○○○
 永禄十年卯
 妙幸禪尼
 六月吉日
 ○○○○○○

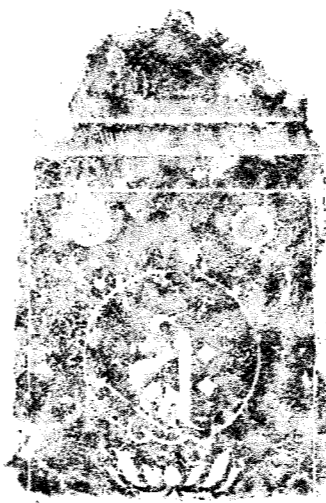


1-1. 永禄10 [1567]
 主尊不明
 (46) × 22 × 2
 *○○は光明真言の梵字

◆ 5 羽 741 羽村市郷土博物館蔵(伊藤和也氏寄贈)




(月) (日)

 (蓮座)



3-3. (文明) [1469 ~ 86]
 阿弥陀種子
 (41.5) × 25.5 × 2
 *蓮座以下はコンクリートに埋め込まれている。
 *かつては道路に面して立ち、残存長48cmで、「文明」の銘が確認されている(史料集)。

◆ 2 羽 1317 旧在 羽村市郷土博物館蔵(羽村健二氏寄贈)


 (蓮座)





5-1. 年不明
 十三仏種子
 (21) × 13.5 × 2